

平成29年度 四日市市環境活動賞受賞者紹介

●受賞団体

株式会社 東産業
グリーンボランティア「森林づくり三重」
「日永梅林・登城山」を復活させる会
三重県立四日市西高等学校 自然研究会
矢田 恵梨子
四日市ダンボールコンポストの会

●表彰式

平成29年12月2日（土曜日）にじばさん三重6階で開催しました「四日市公害と環境未来館環境フェア」中で表彰式を行いました。



株式会社東産業

●表彰活動の内容

- ① 簡易環境アセスメントと環境配慮活動
生きもの救出、移動、侵入対策
- ② ため池の池干し、浚渫工事に合わせた、
特定外来生物の流出防止対策、駆除
地域の自然を伝える活動

●活動の目的

環境保全に携わる研究者や高校、NPOと協働を通して、
環境保全ネットワーク(共同体)を形成
自然環境に関する知識、保全技術、
外来種駆除の知識・経験を共有
協働による河川やため池の環境保全活動を実施

●受賞者の概要

企業名	株式会社 東産業
設立	昭和39年 1月 4日
代表者	代表取締役社長 木室浩一
資本金	3,000万円
売上高	21億2441万円(平成27年度)
社員数	152名 ※平成29年11月28日時点
事業内容	①水処理施設、上下水道管路、浄化槽、貯水槽等の各種施設・設備の管理運営及び維持管理、テレビカメラによる管路内面調査等に係る業務 ②下水汚泥、し尿、浄化槽汚泥等の産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬、中間処理、積替保管、リサイクル業務及び処理処分等に係る業務 ③地域と協働で取り組む、自然環境調査、外来生物の駆除、CSR活動アドバイザー、自然公園の維持管理、絶滅危惧種の記録・撮影

●活動の内容(詳細)

簡易環境アセスメント 環境配慮施工

公共工事や民間工事で、河川や池の浚渫時に、
河川生態系に対する影響を予想(環境アセスメント実施)
地域の研究者と連携して、環境負荷低減のため、
絶滅危惧種や在来種の救出、工事場所へ生き
ものが侵入することを防止するネットを設置



外来種流出防止と駆除 地域の自然を伝える活動

NPOや農家組合所管のため池で、浚渫や清掃、
改修工事に伴う排水時に、特定外来生物の生
息を確認し、外来種流出防止ネットの設置や外
来種の駆除を行い、外来種の拡散防止に努め
ています。また、調査結果を地域へ伝えるため
の生きもの勉強会を開催



●経歴(概要)

- ・2012年 ため池の排水時に外来種流出防止ネット設置
- ・2012年～15年 諏訪神社の池で池干し、外来種駆除等の実施
- ・2015年 市内のため池におけるウシガエル駆除に参加
- ・2016年 市内 浚渫工事で、環境アセスメント実施
ニホンウナギ等の生息を確認し、工事場所から移動、放流
- ・2017年 NPOと連携した里山の自然を紹介する冊子の作成

●今後の予定

環境保全ネットワークの強化と専門性を高め、市内の環境保全を推進する組織へと成長させていく

四日市版環境アセスメント制度の確立を目指し、地域の行政、企業、NPO、専門家らと連携して、品質の向上、普及に努める

外来生物の取り扱いに関する情報発信、指導ができる地域リーダーと役割を果たしていく

平成29年度 四日市市環境活動賞 受賞者 グリーンボランティア「森林づくり三重」

報告者: 池田輝明

●表彰活動の内容

平成26年7月以来

- 学校林において、毎月危険な風倒木・朽木・枯れ木の伐採、密生木の除伐、観察路に延びた枝の切断および草刈り等を行い、学童が安全に入山できる環境を達成した。
- 毎年、5年生(約90名)に対し学校林の整備体験および木工体験を実施。
- 毎年、PTA(約150名)の学校林、校庭まわりの環境整備活動に協力・指導した。



●活動の目的

- 内部東小学校は学校林が併設されているが、近年手入れ不足のため、児童の立入りが困難になっている。
⇒そこで危険な風倒木・朽木、密生木等を除去し、児童が安全に入林でき、環境学習・活動に活用できる学校林を構築する。(月1回会員による)
- 児童に森の役割・重要性を実感し、生命の不思議・大切さに触れてもらうため、学校林の整備体験を行なう。また木工を通して木の实用性、物を創造する喜びを感じてもらおう(年1回)
- PTAの方々にも森の重要性の再認識、リフレッシュ効果を感じてもらおうと共に、学校環境をみずからの手で構築していく喜びを感じてもらおう(年1回)



●活動の内容(詳細)

校長先生、教頭先生と学校林のあるべき姿、現状・整備について協議し、H26年7月活動開始。学校林の現状調査後、毎月危険な風倒木・朽木の伐倒処理。

- H26年10月25日(土) 5年生90名の学校林の整備体験(密生木の伐採)、木工体験を指導
- H27年 ⇒ 毎月朽木・枯木を伐倒、密生木の除伐、草刈り等による観察路の確保
- H27年 1月24日(土) PTA約150名の学校林等の環境整備に協力、指導
- H27年10月24日(土) 5年生97名の学校林整備体験・木工体験を指導
- H28年 ⇒ 毎月枯松伐倒、密生木除伐、草刈り等
- H28年1月23日(土) PTA約1160名の学校林等の環境整備を協力、指導
- H28年10月22日(土) 5年生100名の学校林の整備体験(密生木伐倒)、木工体験を指導
- H29年 ⇒ 毎月危険木・不要木・枝を伐採、草刈り、階段づくり等
- H29年1月28日(土) PTA約180名の学校林等の環境整備(ツルの除去、草刈り)を協力、指導
- H29年10月28日(土) 5年生83名の木工体験(表札づくりと壁掛け)を指導
(雨天のため学校林作業は中止し、丸太切をした)

●経歴(概要)

平成11年近畿地区のグリーンボランティア研修会を機に有志が12年2月当会を設立。活動フィールドがなかった当初から現在では北勢地区から中南勢、伊賀地区に10余りとなった。

活動分野も当初の山林の間伐・草刈りから竹林整備、里山整備、学校林整備に加え子ども、市民の森林体験指導、各地での木工教室、地域住民依頼の迷惑木・不要木伐採、薪、チップ材の供給に至っている。

また、先進団体、県によるチェーンソー安全、研修会で学ぶとともに自ら当会内、市民に研修会を主催している。

●今後の予定

我々会員が行っている学校林整備、児童イベントにPTA有志の方の参加をお願いし、パワーアップ、地域への拡大・深化を図り、将来的にはPTA・地域の方が主導になるような仕組みを構築したい。

我々は当校においては企画・技術的アドバイスなどにとどめ、他の保育園・学校等にも拡大できればと考えている。

平成29年度 四日市市環境活動賞 受賞者

「日永梅林・登城山」を復活させる会

●表彰活動の内容

1 地球温暖防止に向け、梅木の植樹、育樹活動に努め、 正しく「日永梅林、登城山」を復活させる。

(北ゾーン)
取り組み: 20年前より南部丘陵公園へ梅の苗木を、登城山には、実のなる木を毎年植付中。

現況: H29年4月現在 梅木 2,400本、実のなる木 300本 植付、育樹中。

※最盛期(江戸末期)は9,000本

2 快適環境&健康づくり

●梅祭典事業として「梅まつり、梅ちぎり、登城山まつり、秋まつり等」4回/年 開催中。

●登城山に冒険の森 遊歩道を開設。四日市市により「南部アルプス道」が布設、コラボして活動中。

→ 参加者には、あすなろう鉄道の活用呼びかけPR中= <観光公園化>



●表彰活動の内容

3 環境・自然観察教育・・・知見・体験等を通じ、理解を深め、永続と後継者の育成

※近年の小学校・幼稚園等へ総合学習支援継続中。<9年前より>
(中学・高校へは、ビラやポスター配布)

4 地域社会と共に！ 住民参加型のまちづくり、輪(和)づくりに努力中

→ “緑、青空、笑顔いっぱい”のこの地をめざして！



●活動の目的

“復活 日永梅林”



伊勢新聞 四日市支店 三浦新聞社 会報 1986年 11月号 または 1987年 12月号 3月 14日 発行
「梅のふる里 日永梅林」(写真一冊 日永梅林まつり) ナタシ

起史

「日永梅林」の歴史は古く、江戸(後期)時代に遡り、特に大正～昭和13年頃の最盛期には、9千本もの梅花が咲き誇る東海地方有数の景勝地で有り、開花期には、馬車や臨時列車(現あすなろう鉄道)が停車し、梅林の道筋には多くの茶屋や紅白幕仕立ての棧敷が幾つも並び、それはそれは大勢の花見客で賑わったとの事。

しかし戦下(第2次大戦)に巻き込まれ、梅林は切倒され荒廃、その勇姿は消滅した。

<目的>

私たちは、その復活再生を願い、この自然豊かな文化財である「日永梅林」を復活させ、「登城山一帯」を自然あふれる里山遊歩道(冒険の森)に再生・永続させる事を願い、単に緑化推進にとどまらず、地域社会との連携を図り、「住民参加型のまちづくり」を推進する事を目的に、平成11年3月「日永梅林・登城山」を復活させる会と命名し発足。

●経歴(概要)

H11年 3月 活動開始

H15年 4月 登城山へ「冒険の森」遊歩道を開設

H19年 6月 「第18回全国みどりの愛護のつどい賞」受賞 ※於 長野県安曇野市

H20年 6月 児童への「梅・公園・環境等」の総合学習支援スタート (泊山小、泊山幼)毎年実施

H29年 3月 植育樹管理本数 梅2,400本、実のなる木300本 ⇒以後、育樹中心に取り組む

H29年 4月 四日市「南アルプス縦走路」布設(市)⇒冒険の森遊歩道とコラボ・管理

H29年11月 四日市市制120周年記念・当会発足20周年事業が承認される

H29年12月 四日市市環境活動賞 受賞

※日永梅を活用した銘品開発中<四日市農芸高校とコラボ>

●今後の予定

1. 平成29年度計画分

記念誌発刊

四日市市制120周年記念・当会発足20周年事業として

①平成30年 1月「南アルプス縦走路」初歩き&新春もちつき大会

② " 2月～3月21日 第20回復活梅まつり、3月3,4日第20回梅見会 開催

③ " 3月17日 当会20周年記念梅林講演会(四日市文化会館)

2. 活動の永続化に向け、次世代への引き継等を検討

環境・自然観察教育・学び合いの継続！！

3. 四日市市エコパートナーとしての取り組み(情報交換、交流のUP)、全国梅サミットへの参画検討

平成29年度 四日市市環境活動賞 受賞者

三重県立四日市西高等学校 自然研究会

●表彰活動の内容

フクロウ (*Strix uralensis*) をシンボルとした自然保護活動へ

私たちのフクロウ保護プロジェクトは、保護、研究、教育の3つの柱で実践しています。

保護

巣箱掛けによる子育て支援

研究

フクロウの生態研究
ペリット調査による給餌特性解明
研究発表

教育 (啓発活動)

体験型の講演会
フクロウ巣箱づくり
展示・写真展



●活動の目的

地球には数多くの生物が棲んでいます。それらの生物は、人間も含めて互いに繋がり支えています。これを生物多様性といいます。

フクロウは森林生態系の頂点に立つ生物です。フクロウを守る取り組みは、多くの生物が棲む環境を守る取り組みであり、生物多様性を守ることに繋がります。

このフクロウが棲む環境を次世代に引き継ぐため、保護、研究、教育の3つの柱でフクロウ保護プロジェクトを推進します。

私たちは、フクロウの魅力を最大限に活用し、フクロウをシンボルとして、地域の自然保護に対する意識の向上に努め、この活動がさらに広がり、全国の自然環境が保全・育成されることを目指します。



●活動の内容

保護：巣箱掛けによる子育て支援

フクロウが安心して安全に繁殖できることが大切です。狩場や水場に近い場所に設置しますが、アライグマなど木に登る天敵動物、カメラマン、密猟者対策が欠かせません。行政・森林組合・企業・自治会などと連携させて頂き、鈴鹿山脈の山麓を中心に、四日市市、菟野町、いなべ市、津市などに巣箱の設置を進めています。現在の設置数は39箱です。(H29年11月)



巣箱づくり



巣箱掛け



4市町に巣箱掛け

研究：フクロウの生態研究・ペリット調査による給餌特性解明・研究発表など

3月中旬からフクロウは抱卵を開始します。この時期から繁殖を阻害しないよう十分な配慮のもと生態調査を実施します。繁殖後に巣箱に残されたペリット内容物を分析し捕食された動物の同定を行います。各地域の餌動物を特定することで、餌動物を含めた総合的な保護活動に繋がりたいと考えています。研究結果は、各種の研究発表会や日本鳥学会等で発表します。



ブラインド内から観察



ペリット調査



研究発表

教育 (啓発活動)：研究活動を通して分かったフクロウの生態や魅力を地域で発信

大人や子ども向けの体験型の講演会を実施し、フクロウや環境を守る意義を伝えます。地域の人と巣箱づくりをして、自分たちの活動からみんなの活動へ輪を広げます。学童保育所で小学生向けの啓発活動を行い、次世代へ活動を繋げます。各地で活動紹介や写真展なども行います。



体験型講演会



学童保育所で啓発活動



展示による活動紹介

●経歴

四日市西高校自然研究会では、本校周辺の豊かな湧水に育まれた里山環境に生息する動植物の調査研究と保護活動を実施してきました。2015年春、私たちが四日市市西部丘陵地帯でフィールド活動中に1羽のフクロウの鳴き声を聞きました。これがフクロウ保護プロジェクトの始まりです。

- H27年度 四日市市西部丘陵地帯にフクロウ用巣箱を7箱設置
- H28年度 四日市市、菟野町、津市に15箱の巣箱を設置
三重生物研究発表会で知事賞受賞
行政、森林組合、企業等との連携が進み17箱の巣箱を設置
- H29年度 日本鳥学会2017年大会 研究発表
生物多様性アクション大賞2017 入賞
第52回全国野生生物保護実績発表大会 文部科学大臣賞受賞 など



四日市内のフクロウ

●今後の予定

フクロウ保護プロジェクト：保護、研究、教育の3つの柱の更なる推進

保護

- ・外来のアライグマ対策
- ・フクロウの棲む森づくり
- ・餌動物の保護活動

研究

- ・テレメトリー法を用いた生態調査
- ・巣箱内撮影技術の確立
- ・巣箱を利用する生物の調査研究

教育

- ・安易な巣箱掛け防止の啓発活動

【フクロウの棲む森を次世代へ】



平成29年度 四日市市環境活動賞 受賞者 四日市公害マンガプロジェクト

●表彰活動の内容

■制作活動

・四日市公害犠牲者の遺族や関係者に取材を行い
四日市公害を題材にしたマンガ
『ソラノイト～少女をおそった灰色の空～』を制作

・『ソラノイト』の他に研究者や教員、遺族や報道記者など
総勢12人の文章や対談を収録した書籍
『空の青さはひとつだけ—マンガがつなぐ四日市公害』を出版

■講演・体験学習活動

・国際基督教大学(ICU)と連携し、講演会を実施
学生たちが『ソラノイト』を英訳する授業に携わる

・若者を対象にしたワークショップイベントなども開催



●活動の目的



四日市公害を経験した人々の
高齢化により進んでいる歴史の風化



公害を知らない若い世代が
関心を持つきっかけになるように、
マンガという媒体を通してわかりやすく
四日市公害について発信したい

四日市公害を経験していない世代が、
歴史をありのままに伝えることは難しい。

しかし、歴史から学んだことを通して
今の世の中との接点を見つめ、
自分なりの解釈を表現していくことで
新たな関心が生まれ、
後世につなぐことが出来るのではないか。



●活動の内容(詳細)

2015年から国際基督教大学(ICU)の授業で学生
が『ソラノイト』を英語に翻訳するプロジェクトに
携わる。翻訳という作業を通して、公害の歴史や
当時生きた人々の感情への理解を深めた。



2016年には『よっかいちこうがい未来カフェ』を
開催し、ワールド・カフェという対話の手法で『ソラ
ノイト』を活用したワークショップを実施。作品から
何を感じたか、なぜそう感じるのかを意見交換。

出版記念講演会では公害を経験した世代と若い世代の
2つの対談を行い、娘を亡くした遺族の悲しみや、時代
に合った発信の仕方や表現の可能性について語る。



●経歴(概要)

- 2014.7 四日市公害マンガの構想、遺族や関係者への取材開始
- 2015.9 『ソラノイト』完成、公害犠牲者合同慰霊祭で作品を展示
- 2015.12 国際基督教大学にて講演会、翻訳授業を実施
- 2016.3 四日市公害と環境未来館にて『よっかいちこうがい未来カフェ』を主催
- 2016.7 『空の青さはひとつだけ』出版、出版記念講演会を共催(四日市再生「公害市民塾」)
- 2016.9 名古屋丸善にて重版記念トークイベント『イト』にたくして』を主催
東京大学にて研究会『マンガと哲学の対話』で活動事例報告
〈活動期間(2017年8月1日現在: 3年1か月)〉

●今後の予定

■英訳版冊子を制作

『ソラノイト』のマンガは翻訳のためにあらかじめ左綴じ+横向きの吹き出しで構成しているため、
英訳版の冊子を作り、日本だけでなく様々な国の方に読んでいただけるようにしたい。

■活用法の共有

学校の授業や教員向け講習などでの書籍の活用事例をまとめ、教員や研究者と共有したい。

■点字化・音訳化

四日市市立図書館の点字ボランティアの方によって書籍の点字・音訳作業が進められており、
耳の聞こえない方や目が見えない方にも読んでいただけるようになる。

携わった講演会やイベントは計6回。参加者の合計は約557名。
初めて四日市公害に関するイベントに参加した人が数多くおり、若者たちへ興味・関心を向けることが出来ました。

平成29年度 四日市市環境活動賞 受賞者

四日市ダンボールコンポストの会

●表彰活動の内容

◆ダンボールコンポストで生ごみの堆肥化！

- ✓ 生ごみを「出さない」「運ばない」「燃やさない」
- ✓ 生ごみの堆肥化で楽しい家庭菜園、美味しい野菜づくり



ダンボールコンポスト講座



生ごみを堆肥化させた肥料を使用して育てた小玉スイカ

●活動の目的

ダンボールコンポストの会では、

地球温暖化防止

を活動の目的としています。

○ダンボールコンポストとは

- ダンボール箱を利用した生ごみ処理容器
- ピートモスなどの土壌改良材を用いて、家庭の生ごみを堆肥化
- 微生物の力によって生ごみを分解し、堆肥(肥料)を作る
- ダンボールを容器として使うことによって、生ごみの水分を蒸気として抜き出す効果と、微生物に酸素を供給して生ごみを分解させる



●活動の内容

ダンボールコンポスト講座では、・・・

①新規者講座

ダンボール箱の使い方、基材の説明、日々の手入れの方法などの説明する

②AF講座

ダンボールコンポストを始めてから2週間ほど経ったときに、日々の手入れが順調かどうかを確認する

③継続講座

ダンボールコンポストを始めてから、3か月程度、生ごみを処理することができるが、基材が満腹の合図(臭い等)を出す頃に講座を開催し、ダンボールコンポストの継続と参加者同士の体験談を聞き、見習うべき点を共に教えあう。



●ダンボールコンポストのメリット

- ✓ ランニングコストがかからない
- ✓ 臭いが少ない
- ✓ 生ごみは発酵分解して、安全安心な堆肥となる
- ✓ 生ごみを出さない・運ばない・燃やさないなので、**ごみ処理量の削減**となり、**CO2の削減**にもつながる
- ✓ 生ごみを堆肥化して家庭菜園に使用できる

●受賞団体の概要

○会の発足 … 平成20年4月

○会員数 … 8名

○主な活動 … ダンボールコンポスト活動
市内20地区市民センター、5団体へ年間約120回の講座を開催
年間講座受講者数 約1,000名
<活動期間(2017年8月1日現在: 9年4か月)>

●今後の予定

- 当会は、地球温暖化防止は人間にあたえられた課題と考えている
- 私たち市民は、市の環境テーマである「～環境先進都市 四日市～」を实践するよう、努力しなければならない
- 市民一人ひとりが少しずつの温暖化防止活動を行う必要がある
- 「ダンボールコンポスト講座」等を継続して実施し、地球温暖化防止活動が市民へ定着するようにアピールし、普及啓発活動を進めていきたい